

I 東日本大震災をはじめとする学校再開の教訓

- 1 東日本大震災の教訓（平成 23 年 3 月 11 日）
- 2 岩手・宮城内陸地震（平成 20 年 6 月 14 日）
- 3 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨（平成 27 年 9 月 11 日）
- 4 蔵王山火口周辺警報に伴う対応（平成 27 年 4 月）
- 5 熊本地震における学校支援（平成 28 年 4 月～）

1 東日本大震災の教訓（平成23年3月11日）

(1) 概要

① 地震名

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震

② 発生年月日

平成23年3月11日 14時46分

③ 震源地

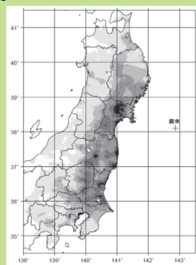
三陸沖（北緯38度 東経142度）

④ 震源の深さと規模

深さ24km マグニチュード9.0

⑤ 震度

震度7	宮城県栗原市
震度6強	宮城県, 福島県, 茨城県, 栃木県



(2) 被害状況

【人的被害】（平成29年12月31日現在）

死者[関連死含む]	10,564人
行方不明	1,226人

【住宅被害】（平成29年8月31日現在）

全壊[床上浸水含む]	83,003棟
半壊[床上浸水含む]	155,130棟
一部損壊	224,202棟



押し寄せる津波(石巻市)

【東日本大震災アーカイブ宮城】

公立学校等の被害状況

(宮城県教育委員会 平成28年9月10日現在)

【人的被害】

児童生徒: 死者 327人	行方不明 35人	負傷者 14人
教職員: 死者 19人	行方不明 0人	負傷者 11人

【施設被害】 762校

(3) 被害の特徴

- ・ 広域(沿岸全市町)にわたる津波被害
- ・ 甚大な人的被害
- ・ 通信施設の損壊による情報不足・混乱
- ・ 深刻な燃油不足
- ・ 食料等の確保が困難
- ・ 膨大な量のがれきが発生



震災後の気仙沼市【宮城県】

2 岩手・宮城内陸地震（平成20年6月14日）

(1) 概要

① 発生年月日

平成20年6月14日 8時43分

② 震央地

岩手県内陸南部

③ 震源の深さと規模

深さ8km マグニチュード7.2

④ 震度

震度6強	宮城県栗原市
	岩手県奥州市
震度6弱	宮城県大崎市



荒砥沢ダム崩落現場【栗原市】

⑤ 地震の特徴

- ・予測が難しい逆断層型の内陸直下型地震
- ・大加速度、短周期の揺れの影響による大規模な土砂災害が発生

(2) 被害状況

【人的被害】

死者13人 行方不明4人 負傷者180人

【住家被害】

全壊28棟 半壊141棟 一部損壊1,733棟

(3) 避難指示、勧告世帯数 150世帯

学校・教育施設の被害状況（文部科学省報告から）

【人的被害】 生徒：2人（軽傷）

【物的被害】

公立学校施設	58校
市立学校施設	11校
社会教育、体育、文化施設	103施設
文化財関係	13損壊



栗原市内小学校の教室【宮城県】



大規模な土砂災害現場【宮城県】

発生時が土曜日の朝であったため、多くの児童生徒が学校ではなく自宅において地震に遭遇した。

これまで行われてきた校内での避難訓練だけでは不十分であるとの認識を強くもった。

3 平成27年9月関東・東北豪雨(平成27年9月11日)

(1) 概要

平成27年9月7日に発生した台風18号が温帯低気圧に変わり、日本の太平洋上にある台風17号の影響で、関東地方北部から東北地方南部にかけて記録的な豪雨をもたらした。

宮城、栃木、茨城の3県で8人の尊い命が奪われ、本県大崎市においては、渋井川の破堤により、床上・床下浸水等が、約700棟にもおよび、また孤立した住宅から192人が救助された。



大崎市古川西新井地区【宮城県】

(2) 大雨特別警報発表に伴う対応

【宮城県】

- ・ 9月11日(金) 1時45分 「警戒本部」(1号配備)
 - ・ 9月11日(金) 8時30分 「災害対策本部」設置
 - ・ 9月11日(金) 22時00分 「災害対策本部」廃止(0号配備)
- ※総務部危機対策課において0号配備体制を継続

【大崎市】

- ・ 9月11日(金) 2時30分 「避難準備情報発令」(3地域)
- ・ 9月11日(金) 3時15分 「特別警戒本部」設置
- ・ 9月11日(金) 6時00分 「災害対策本部」設置
- ・ 9月18日(金) 「災害復旧推進本部」設置
- ・ 10月13日(火) 10時00分 「災害対策本部」廃止

(3) 避難所となった大崎市立古川第五小学校の対応

【9月11日(金)】

- ・ 3時頃：大崎市から避難所開設の連絡あり
避難者の対応(校内にあったタオル類、教職員の衣類を提供)
- ・ 6時頃から：臨時休校を保護者あてにメール配信し、その後、全児童の安否確認を行う(安否確認終了 18時頃)
- ・ 校長、教頭、防災主任の他、教職員の3,4人が3日間、学校に待機し、避難所支援にあたった

【9月14日(月)】

- ・ 通常登校、スクールカウンセラー(SC)の臨時配置

ボランティア活動に参加した高校生
【大崎市】避難所となった古川第五小学校
【大崎市】

4 蔵王山火口周辺警報に伴う対応（平成27年4月）

(1) 概要

平成27年4月13日に小規模な噴火が発生する可能性がある判断し、火口周辺警報(火口周辺危険)が発表された。

御釜付近が震源と推定される規模の小さな火山性地震が増加し、4月の地震回数は319回と観測開始以降最多の月別地震回数となった。

6月16日午前9時に噴火の可能性が低くなったとして、火口周辺警報(火口周辺危険)が解除された。



蔵王御釜 【仙台管区気象台】

(2) 火口周辺警報に伴う対応

【宮城県】

- ・ 4月13日(月) 13時30分「災害対策本部」設置
- ・ 噴火警報(火口周辺危険)の発表に伴う対応(第3報)
想定火口域(馬の背カルデラ)から概ね1.2kmの範囲で、噴火に伴い飛散する大きな噴石に警戒
- ・ 対応市町村等(県内)
蔵王町、七ヶ宿町、川崎町
- ・ 蔵王エコーラインの通行止めの継続

【蔵王町】

- ・ 4月13日(月) 13時45分「蔵王火山災害対策本部」設置
- ・ 「蔵王山の噴火活動が活発化した場合の避難訓練計画」策定
H27.10.28

【町内学校等】

- ・ 町で策定した「蔵王山の噴火活動が活発化した場合の避難訓練計画」に基づいた対応
- ・ 避難準備情報が発令された場合の対応、保護者への引渡し等

蔵王山過去事例

- | | |
|-------|---------------------------|
| 1821年 | 鳴動, 御釜沸騰, 湖水氾濫, 河川増水 |
| 1867年 | 御釜沸騰, 洪水で死者3人 |
| 1895年 | 噴石, 火砕サージ, 御釜の湖水氾濫, 噴気孔生成 |
| ～96年 | |

5 熊本地震における学校支援（平成28年4月～）

(1) 概要

平成28年4月14日、21時26分、熊本県熊本地方を震央とするマグニチュード6.5の地震(前震)が発生し、その28時間後の4月16日、1時25分と同じく、熊本県熊本地方を震央とするマグニチュード7.0の地震(本震)が発生し、熊本県西原村、益城町で震度7を観測した。



南阿蘇村大規模土砂災害【宮城県】

本県では、全国知事会からの派遣要請により、児童生徒の心のケア支援業務として、平成28年5月12日から6月3日までの期間において、御船町立小学校2校に4人の職員を派遣した。その後、熊本県教育委員会から教職員の長期派遣依頼を受け、主幹教諭と養護教諭各1人を翌年度は、益城町立小学校に主幹教諭1人を派遣し、児童の心のケアや学習支援、教職員へのアドバイス等に従事している。

(2) 教職員の派遣状況

期間	派遣先(学校)	派遣教職員
H28.5.12～5.23	御船町立高木小学校 御船町立御船小学校	スポーツ健康課職員 スポーツ健康課職員
H28.5.23～6.3	御船町立高木小学校 御船町立御船小学校	生涯学習課職員 高校養護教諭
H28.6.6～H29.3.31 ※養護教諭については、10.31で交代	御船町立滝尾小学校 御船町立小坂小学校	小学校主幹教諭 中学校養護教諭 (小学校養護教諭)
H29.4.1～H30.3.31	益城町立益城中央小学校	小学校主幹教諭

(3) 活動内容（派遣された教職員の報告から）

- ・ カウンセリング等による児童の心のケア
- ・ MAP(みやぎアドベンチャープログラム)を活用した授業
- ・ 教職員研修講師(心のケア)
- ・ 日常の保健室対応
- ・ 道徳授業のサポート(T2)
- ・ 教職員との情報交換(お茶べり会の開催)
- ・ メンタルヘルス通信の発行
- ・ 心とからだの健康観察調査



公園でのテント生活の様子

【宮城県】

(4) 今後の課題

- ・ その場、その時のニーズを捉え、適切な支援を行う支援づくり(チームとしての支援体制)の必要性
- ・ 東日本大震災の教訓を伝える人材と心のケアの専門性を兼ね備えた人材の育成

メ モ

